

弁慶余聞

弁慶が姫路にいたのは7歳から17歳ごろまでで、まだ義経に会う前のことです。書写の円教寺で稚児僧として修行していましたが「鬼若丸」という名のおり、なかなかの乱暴者だったようです。ちなみに彼が福居村で仮寝をしたのは16歳のときと言われています。円教寺には『弁慶の学問所』（護法堂拝殿）や『勉強机』など弁慶にまつわる遺物が大切に保存されています。

姫路市別所町の旧山陽道沿いに、弁慶が福居村の庄屋の娘・玉苗と一夜を共にしたと伝えられている「弁慶地蔵堂」があります。この話が歌舞伎化され、「福居村の本陣で弁慶はおわさと妹背の縁を結んだ」となっていたのでしよう。



葛畑三番叟

かずらはたさんばそう

葛畑三番叟は雪に埋もれながら春を待ち田畑で種をまき、慈しみながら万物を育て収穫する喜びと、葛畑の自然の移ろいを表現しています。葛畑は豪雪地帯に位置する地域で、周辺にはスキー場も有しているため、途中雪を喜んで舞う場面があります。神事としての三番叟から、美しく華やかにと舞踊の流れを取り込み、子どもらしく振り付けされています。

せきのみや子ども歌舞伎クラブ

平成15年、37年ぶりに復活した農村歌舞伎「葛畑座」の発足に伴い、伝統文化継承の一環として、子ども歌舞伎が始まりました。平成23年の全国こども民俗芸能大会、24年の全国地芝居サミット等で公演し、養父市の伝統芸能を全国に発信しています。今年も12月6日に『第13回子ども歌舞伎公演』（養父市関宮公民館ノビアホール）を開催します。ぜひご来場ください。

歌舞伎といえば、京・大阪・江戸の大歌舞伎か、農村などで行われる素人の地芝居、農村歌舞伎をまず考えるが、そのいずれでもない『地方歌舞伎』とでも呼ぶべきものがあった。江戸時代の中ごろ、中央から農村へ歌舞伎が浸透しはじめた。農民自身が芝居をしたり、役者を招いて芝居を楽しむために村々に『農村舞台』がつくられたりした。この農村舞台で芝居をしていた役者で、とくに播州地方に住む人たちがその座を『播州歌舞伎』と呼ぶ。播州歌舞伎は、余技に演ずるのではなく職業集団として巡業し、都会の大歌舞伎や小芝居とも違った独自の演技演出・外題を伝えてきた。

現在、10〜30歳代の女性を中心とした地元若者たちが、先人の願いと伝統を引き継ぎ、『播州歌舞伎』の新しい時代を築いている。



多可町中央公民館 播州歌舞伎クラブ

出石永楽館公演

平成27年10月25日

御所桜三段目〜弁慶上使の段〜

多可町中央公民館 播州歌舞伎クラブ事務局

兵庫県多可郡多可町中区茂利20

多可町教育員会こども未来課内 TEL(0795)32-2385

播州歌舞伎クラブのHP

<http://takacho.tokyo.r-cms.jp/kyoiku/kabuki/>

御所桜三段目〜弁慶上使の段〜あらすじ

舞台は、侍従太郎の館。義経の正室・卿の君が、この乳人の館に里帰り出産のため静養しています。彼女が平家一族の平時忠の娘ということで、義経は兄頼朝から謀反の疑いをかけられていました。ある日、頼朝の命により、武蔵坊弁慶が上使（幕府の命令を伝える使者）として館に現れます。主の侍従太郎と奥方の花の井が弁慶を出迎え、卿の君も元気な姿を見せますが、何やら内密の話があるというので、一同奥へ消えます。

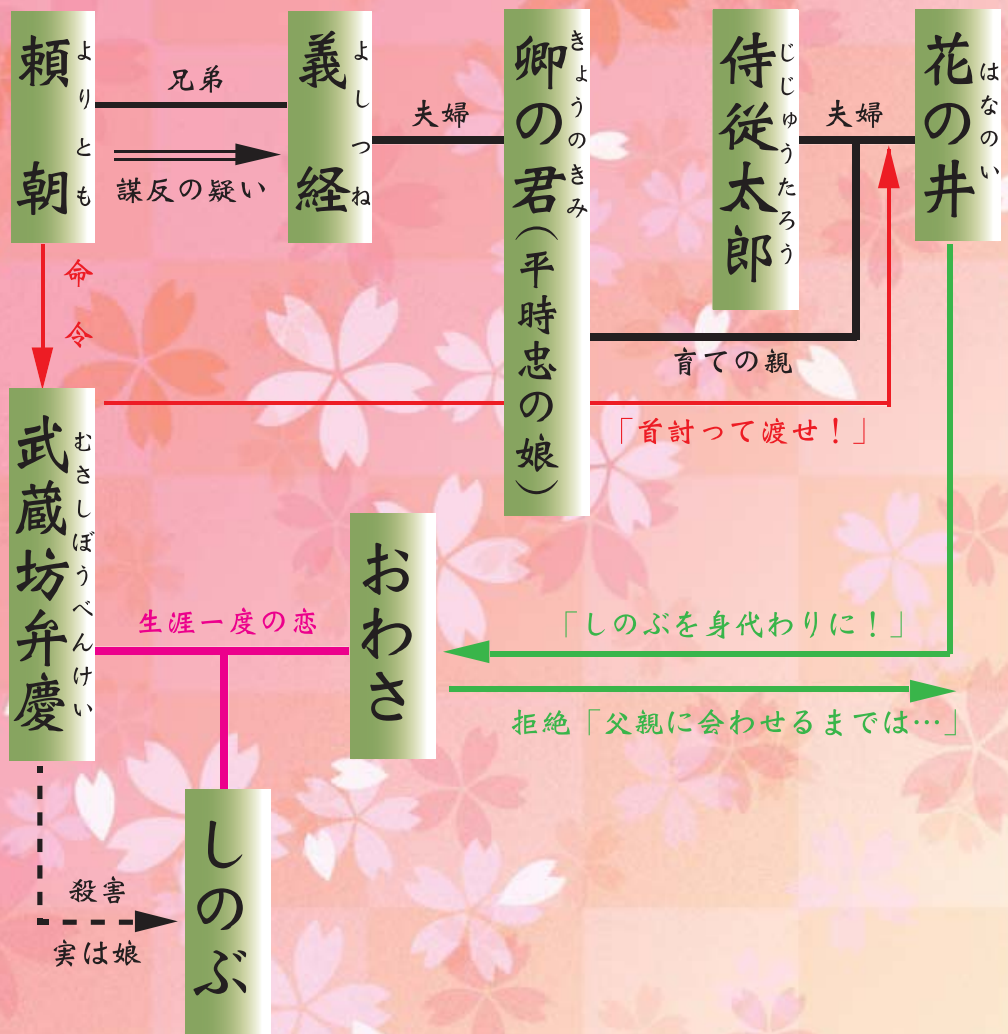
腰元としてこの館に仕えていたしのぶは、久しぶりに訪ねてきた母親のおわさと楽しげに話しています。しばらくして花の井たちが姿を現し「卿の君の首を討つて渡せ」との命令が鎌倉から出されていることを伝えるのでした。つまりは、頼朝が「裏切り者の娘を妻にしているとは許せん、首にして差し出せ。さもないとお前も裏切り者として成敗するぞ」と義経に難題を吹っつけたわけです。

太郎夫婦は、腰元のしのぶを身代りに充てようと、母おわさに頼みこみます。しのぶは「ふつつかな私でもお役に立つならば」と身代わりを承諾しますが、母おわさは十八年前に名も知らぬ男と契つてできた子がしのぶなので、「この子の父親に会わせるまでは…」と必死に拒みます。侍従太郎に「何を証拠に父親を尋ねるぞ」と詰問されたおわさは、赤い振袖の片袖を証拠として見せます。そしてしのぶを生んだいきさつを語りはじめますが、この『くどき』の場面こそ歌舞伎の醍醐味です。

様子を立ち聞きしていた弁慶は、いきなり襖越しにしのぶを突き刺します。取り乱すおわさを制し弁慶が片肌を脱ぐと、そこにはおわさと同じ赤い振袖！ 初めて会ったわが子を、いくら忠義のためとはいえ自分の手にはかけなければならなかった弁慶。泣かぬ剛勇弁慶の、涙に曇る「御所桜」。しのぶ（卿の君の身代わり）の首と自害した侍従太郎の首を抱え、威風堂々と館を去っていく彼の心中は…。弁慶の生涯たつた一度の恋が生んだ悲劇に何を思うのだろうか…。

この作品は、「一谷嫩軍記〜熊谷陣屋の段〜」と同様に、当時の最高の道徳を実践するために、もっとも非人間的な行為を取らざるを得なかった人々の悲劇を描き出しています。

登場人物関係図



配役

武蔵坊弁慶	桑原 志帆
おわさ	山根 加織
しのぶ	田中 悠菜
侍従太郎	松井 梨花
花の井	笹倉 恵美
卿の君	吉田 遥香
腰元	森位 万葉
腰元	常見 妃菜
腰元	中村 佳奈
太鼓	田中 朱音
狂言	橋間 美穂
口上・黒子	藤井 彬
黒子	笹倉佳奈絵
三味線	豊澤 賀祝
太夫	竹本寿太夫
監修	中村和歌若